

外務省委託

平和構築・開発における グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

平成27年度 事業活動レポート

We work for world peace!



不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター

Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)

URL : <http://www.peacebuilderscenter.jp>

©外務省 デザイン・編集：一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC) 発行：2016年3月

広島平和構築人材育成センター

Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)

私たちが目指す平和構築の専門家の育成 主要機関からのメッセージ

岸田 文雄 外務大臣

積極的平和主義に基づく平和と繁栄への貢献 ～人材の育成を通じて～

世界各地で止むことなく紛争が続き、再発を繰り返す中、国際社会では、紛争予防・調停から平和維持・構築、復興、持続可能な開発に至るまで、切れ目のない柔軟な支援を行うことの必要性が改めて強調されています。そのような中、こうした諸分野で活躍できる文民専門家のニーズはますます高まっています。我が国は、国際協調主義に基づく積極的平和主義の立場から、このような状況の改善に貢献すべく、引き続き平和構築と開発分野における人材育成の取り組みを実施していきます。この事業に参加された皆さんが、国際社会の平和と繁栄の創造に貢献できる人材として活躍されることを願っています。



リチャード・ディクタス 国連ボランティア計画 (UNV) 事務局長

平和の恩恵を受けること、あるいは参加型の社会、経済開発を進めることが極めて困難である地域や国において、ボランティアリズムは主要な役割を担っています。ボランティアリズムは緊急支援から復興までの移行を促進し、また脆弱な環境が慢性化しているコミュニティのキャパシティを強化する上でも重要な要素となってきます。

広島平和構築人材育成センター (HPC) と国連ボランティア計画 (UNV) は互いに協力し文民専門家をグローバルなレベルで活躍する人材へと育成することを目的とし、平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業を実施しています。事業は任地においてだけではなく自国においてもボランティアリズムを促進する人材を育成すると同時に、相互的な連帯が強まる世界において必要とされる豊富なキャリア、そしてリーダーシップを養成する機会を提供しています。国連ボランティア計画は平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業を通じて世界の最も困難といわれる地域における経済開発や平和構築に貢献しているボランティアをとて誇りに思っています。今後のキャリアを構築する段階にいる若い人々にとって任地での経験は貴重なだけでなく、より自身の志を高めることとなるでしょう。彼らは任地での貢献以上に異なる文化、異なる国で生きる人々と共に暮らし、そして仕事をするというなにもにも代えがたい経験をするのです。



長谷川 祐弘 HPC評議委員会委員長／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・アドバイザー／元国連東ティモール担当 事務総長特別代表

ピースビルダーズの役割は、平和の本質と共に変化を遂げています。国連創設時には単に紛争のない状態を示唆していたものが、冷戦終結に伴い多様化しました。21世紀においては、紛争の根本原因を除去し、法の支配と民主主義に基づいた恒久的平和の構築が、平和活動の任務となりました。近年の紛争の根本原因はイデオロギー化し、平和構築には、各国の指導者や市民の思考方法の変化と、普遍的な価値観や人間の行動規範の融和を保ちながら、統合することが求められます。指導者は自由と権利を「徳」と「思いやり」で調和し、平和構築に携わる者は、自覚と独立の精神を反映し、新たな時代における平和構築の在り方を理解する必要があります。

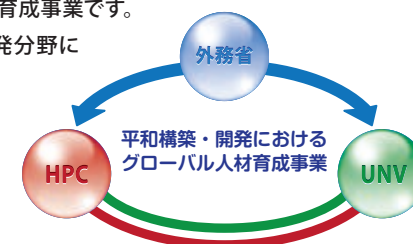


平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築・開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省委託の人材育成事業です。

平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「**プライマリー・コース**」、平和構築・開発分野ですでに従事していて今後更なる活躍を目指す方のための「**ミッドキャリア・コース**」、また平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識等を提供する「**キャリア構築支援**」などを実施します。

過去8年間にわたり、外務省委託「平和構築人材育成事業」を実施した広島平和構築人材育成センター (Hiroshima Peacebuilders Center: HPC) が、本事業の運営にあたり、プライマリー・コースの海外実務研修部分は国連ボランティア計画 (United Nations Volunteers programme: UNV) が実施しています。



平和構築・開発の担い手をつくります

現代世界は、数多くの危機を抱えています。紛争、貧困、難民、疾病、その他の様々な政治的・経済的・社会的な諸問題が存在しています。いずれもが解決することが困難な問題ばかりです。しかし国際社会が問題解決のために努力していかなければ、危機は拡大していつてしまいます。

世界規模の問題の解決に貢献してくれる人材が求められています。平和構築、開発援助、人道援助などに従事する、様々な分野のいろいろな能力を持った人びとが必要とされています。こうした平和構築・開発の担い手となる人材が活躍すべき機会が広がっているのです。

しかし支援の担い手になるためには、専門的な知識だけでなく、高度なコミュニケーション技能など複雑な業務を遂行するための能力を身につけておくことが求められます。目標に向かって進んでいく強い意志も必要でしょう。

そのような平和構築・開発支援の専門家になることは、決して簡単なことではありません。専門家の育成には時間がかかります。そこで専門家を支援していく仕組みも求められます。必要とされる人材を育成するための事業も必要となってくるのです。

本事業は、危機に立ち向かう支援の担い手を一人でも多く育成していくために、開始されました。日本の平和構築の経験を活かしながら、国際社会で活躍する専門家を「ヒロシマ」から送り出していくことを目指します。それは日本が平和構築にいかに関心に取り組むのかを世界に示すメッセージにもなるでしょう。

さらなる貢献のために、日本から世界各地に飛び立っていく国際的な専門家を、世界の多くの人々は待っています。



篠田 英朗

HPC代表理事／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター／東京外国語大学教授

ロンドン大学 (LSE) Ph.D. (国際関係学)。平和構築などに関する著書・論文を多数執筆。代表作:『平和構築と法の支配』(大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』(サントリー学芸賞)、『平和構築入門』、『国際紛争を読み解く五つの視座』。

本事業の運営にあたって

本事業の運営にあたって、実施団体であるHPCとしては、平和構築・開発の担い手を育成する、という目標に徹底的にこだわりたいと考えています。そのためにHPCは、参加者の意識・能力・環境の向上を図ることを目指しています。

まず、本事業に参加した人々が、平和構築・開発支援に対し一層強い意思を固めていくようになってほしいと願っています。世界の問題について深く知り、その解決方法について関心を強めていくことを通じて、使命感とともに、自信を深めてもらいたいと考えています。こうした国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めることができるような事業にしたいと考えています。

ただし、平和構築・開発支援の専門家になるためには、専門分野に精通した能力が必要です。最先端の知識・技能を効果的に参加者の方々に身につけてもらうための工夫を施すことは当然極めて重要なことになります。平和構築・開発支援の最前線で活躍している方々の知見を最大限に吸収することができるような事業にしたいと考えています。

加えて、HPCは、平和構築・開発分野の専門家が自分自身のキャリアを構築し続けていける環境を整備していくことを心がけます。本事業の参加者が得られる財産は、こうした分野の専門家のコミュニティに加わることによって得られる人的ネットワークであるとも言えるでしょう。励ましあい、刺激を与え続ける年齢や国境を越えた仲間たちを培うことによって、専門家が専門家として進み続けるキャリア構築の環境が生まれてきます。こうした国際的支援に情熱を持つ人々が、自分たち専門家のコミュニティを形成していくことができるような事業にしたいと考えています。

人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間を歓迎し続けています。



CONTENTS

主要機関からのメッセージ P.2

平和構築・開発における
グローバル人材育成事業とは P.3

プライマリー・コース
国内研修 P.4

キャリア構築 P.6

プライマリー・コース
海外実務研修 P.7

ミッドキャリア・コース P.8

キャリア構築支援 P.10
■キャリア支援セミナー

その他の活動 P.11
■JPO派遣候補者赴任前研修
■海外機関との関係強化
■人材ニーズ調査

プライマリー・コース 国内研修

世界最高水準の講師を迎え、現場での即戦力を育成

平成28年1月18日から2月27日の約6週間にわたり、東京と広島においてプライマリー・コースの国内研修を実施しました。プライマリー・コースは、平和構築及び開発分野においてキャリアを構築する強い意志を持つ人々を対象に、平和構築・開発支援のために活動する人材を育成することを目的として実施しています。国内研修には、日本人研修員15名、アジア・中東・アフリカ各国の外国人研修員10名の計25名が参加しました。世界各地の平和構築・開発の現場経験が豊富な講師陣の下、当分野の専門家として必要な実践的知識・技能・経験を研修員が得られるよう、紛争状況の分析や活動の立案、多様な組織の調整や情勢に応じた活動の管理といった問題意識に応じた研修を実施しました。また、その効果を最大限に高めるために、ロール・プレイやチーム作業といった演習を様々なテーマで行いました。

日本人研修員は国内研修終了後、海外実務研修において国連ボランティアとして平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ派遣され、実際の平和構築・開発の業務に従事します。充実した国内研修を通じ平和構築・開発の専門家への第一歩を踏み出す研修員たちの今後の活躍が大いに期待されます。



平成28年1月18日、研修員による外務省表敬訪問

本事業の所感



上杉 勇司

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・オフィサー／早稲田大学教授

ケント大学Ph.D.(国際紛争分析)。国家建設、治安部門改革、民軍関係に関する編著を出版。著書：『紛争解決学入門』、『変わりゆく国連PKOと紛争解決』(国際安全保障学会加藤陽三賞)。第2回秋野豊賞受賞。

本事業の最大の宝であり、日本の平和構築支援にとつての希望の星は、プライマリー・コースの研修員です。本事業を通じて、日本人研修員の場合は、国内研修の後に一年間の海外実務研修を経て、その多くが平和構築の現場で活躍し、国連による平和構築支援に継続的に関与しています。修了生たちは、国連PKO、国際機関、外務省、JICA、NGOといった多様な組織で、平和な社会を作るために尽力してくれています。なかには、国連の中堅職員として、重要な職務を担うようになった者もいます。現場を愛する「フィールドワーカー」から、組織やチームを統括する「マネージャー」への転身が求められる段階に差し掛かってきた者も出てきました。本事業を通じて培ったリーダーシップ、スキル、ネットワークを活かして、修了生たちは、国際社会による平和構築支援のあり方に、新しい風をもたらし続けてくれるでしょう。



Message

講師

タチアナ・ガルシアタピア

国連児童基金(UNICEF)教育専門官

プライマリー・コースに講師として参加させていただき、有意義な時間を過ごすことができました。私が担当したセッションでは、南スーダンで展開するユニセフの事業に、「紛争分析」の視点を適用する方法について焦点を当てました。紛争地におけるユニセフの活動として、特に教育と人道支援分野を基に、状況が変化の中で事業を展開・調整する方法についても取り上げました。

また、研修員の皆さんとの個人的な対話の中で、事業の受益者及び他の人道支援機関と協力するための観点や、研修員の皆さんが有しているスキルを現場で活かすための有益な知見を共有することができました。

意欲的な研修員や、豊富な知識と経験を有する他の講師の方々と過ごした5日間は、私にとって大変有意義な経験となりました。この素晴らしい研修に携わる機会を提供して下さいたHPCに感謝しています。



国内研修カリキュラム・講師紹介

開講式

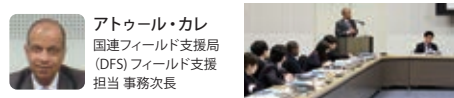
下川 真樹太
外務省総合外交政策局審議官

外務省表敬訪問

黄川田 仁志
外務大臣政務官

第1週

国連フィールド支援局特別講演



アトゥール・カレ
国連フィールド支援局(DFS)フィールド支援担当 事務次長

篠田 英朗
HPC代表理事／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター／東京外国語大学教授

中井 恒二郎
国連世界食糧計画(WFP)日本事務所政府連携担当官

上杉 勇司
平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・オフィサー／早稲田大学教授

平林 国彦
国連児童基金(UNICEF)東京事務所代表

長谷川 祐弘
HPC評議委員会委員長／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・アドバイザー／元国連東ティモール担当 事務総長特別代表

河原 直美
国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所副代表

ウィリアム・バリガ
国際移住機関(IOM)駐日代表

垂井 美枝子
HPC評議委員／合同会社グローバルリーダーシップ代表・創設者

吉波 佐希子
独立行政法人国際協力機構(JICA)社会基盤・平和構築部平和構築・復興支援室調査役

第2週

アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法
政治的・法的分野(和平調停・裁判所等)の政策的課題



マーシャル・コンリー
平和活動と紛争後復興に関する国際コンサルタント／コンリー国際教育コンサルタント代表

藤原 広人
国連クメール・ルージュ裁判支援事業(UNAKRT)審査判事局分析課チームリーダー

アブラハム・アオリッチ
スッド・インスティテュート総務・財務ディレクター

タチアナ・ガルシアタピア
国連児童基金(UNICEF)教育専門官

水田 慎一
国連ソマリア支援ミッション(UNSOM)官房長室統合分析チーム長代行

デズモンド・モロイ
HPCコースメンター／日本財団マンマリーエゾンオフィスプログラム・ディレクター

ママドゥ・エンドウ
国連開発計画(UNDP)アフリカ地域事務所結果重視マネジメント(RBM)・評価アドバイザー／チームリーダー

平原 弘子
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)東エクアトリア州調整官・事務所長

第3週

プランニング

プロジェクト／ミッション立案の手法
安全保障分野(DDR・SSR・PKOミッション等)の政策的課題



フィリップ・シェラー・ジョーンズ
世界経済フォーラム国際安全保障 プラクティスリード

リュック・スティーブンス
国連常駐調整官／国連開発計画(UNDP)タイ常駐代表

リョック・スティーブンス
国連開発計画(UNDP)アフリカ地域事務所結果重視マネジメント(RBM)・評価アドバイザー／チームリーダー

野村 昌二
陸上自衛隊中央即応集団国際活動教育隊長



第4週

コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法
人道援助活動(ジェンダーや児童保護等含む)の政策的課題



忍足 謙朗
HPC評議委員／元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域局長

イ・キョンシン
韓国国際開発協力民間協議会プログラム・ディレクター

関 薫子
国連イラク支援ミッション(UNAMI)官房戦略計画室長

ピーター・コゼレーツィ
国連難民高等弁務官(UNHCR)バンコク事務所国際人道援助緊急事態対応訓練 地域センターコーディネーター

ジョン・キャンベル
人道安全管理・緊急医療トレーナー

篠田 英朗
上杉 勇司

第5週

マネジメント

プロジェクト運営の手法
開発援助活動(各種援助スキームを通じた支援)の政策的課題



中村 俊裕
コペルニク(Kopernik)共同創設者兼CEO／前国連開発オペレーション調整事務所(DOCO)、国連開発グループ(UNDG)／大阪大学大学院国際公共政策研究科 招聘准教授

メムナツ・ブラット
シエラレオネ大学 ファラベイ・カレッジ平和紛争センター所長／教授

ヘンク＝ジャン・プリンクマン
国連平和構築支援事務局(PBSO)政策・プランニング・アプリケーションチーフ

田中美樹子
国連開発計画(UNDP)イエメン事務所長

ルイス・ロビンソン
InSiTuトレーニングディレクター

近藤 哲夫
国連開発計画(UNDP)駐日代表

ジョン・キャンベル
篠田 英朗
上杉 勇司

第6週

安全管理



ジョン・キャンベル
ルイス・ロビンソン

坂田 奈津子
外務省総合外交政策局国際平和協力室長

佐藤 知央
オフィスクラッチ代表

スループ・セセッション／キャリアデザイン

垂井 美枝子



Message

研修員

リ ジュンヤン
李 隼陽

プライマリー・コースは私の想像以上に素晴らしく、参加することができ光栄に思います。国連での経験を豊富に有する講師の方々は、講義だけでなく、演習へのフィードバックや、休憩中の質疑応答などを通じて、研修に貢献して下さいました。

本研修は、理論と実践の両面でバランスが取れていました。全体を通じて、演習は、現場における実務感覚を養うように実践的な内容で構成されていました。包括的でバランスの取れた内容のカリキュラムは、研修員に、現場で活用できる知見を提供しました。

また、本研修は日本人・外国人研修員両者に向けて適切に設計されていました。本研修への参加を通じて、日本人研修員は将来のキャリア構築に備えることができ、同時に、外国人研修員も、キャリア構築へ向けた新しい道を切り開く機会を得たと思います。



Message

研修員

船越 雄太

プライマリー・コースに参加する以前は、日本の国際NGOでプログラム・コーディネーターとして、災害時の緊急支援や難民支援などに関わってきました。現代の人道危機は長期化傾向にあり、紛争を1日でも早く解決するためにも、紛争解決で重要な役割を果たしてきた国際機関で紛争解決の仕事に就きたいと考え、本研修に参加しました。

国内研修では経験豊富な講師陣から講義で理論を学んだ後、グループワークで理論を実務に即した状況で応用し、講師陣からフィードバックを受けることができました。国際機関での勤務に必要な知識とスキルを集中的に学ぶことができ、非常に実践的と感じました。

この研修での経験を活かし、今後は国連平和維持活動の民政官などの職種で紛争解決に関わり、様々な暴力の軽減に貢献できる人材になりたいと思います。



海外実務研修の
派遣先実績

※「平和構築人材育成事業」平成26年度本コースの
海外実務研修先



- UNDP (国連開発計画)
スーダン、スリランカ、レソト
- UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)
コンゴ(民)、ケニア、ルワンダ、タンザニア
- UN Women (ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関)
カンボジア、バングラデシュ
- UNICEF (国連児童基金)
フィリピン、スーダン
- UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション)
南スーダン



Message

平和構築人材育成事業
平成26年度本コース研修員

菅原 雄一

国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS)
報告・オペレーション担当官補

国内研修参加後、国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) の地方事務所にて、政治・治安分野の情報分析と、各種オペレーションの調整を担当しています。最も現場に近い国連PKOの「目と耳」として、流動的な政治情報を迅速に取りまとめ、本部に報告することが求められます。自分の書くローカルな情勢報告が、国際社会の見方として記録されていく日々は、非常に刺激的です。

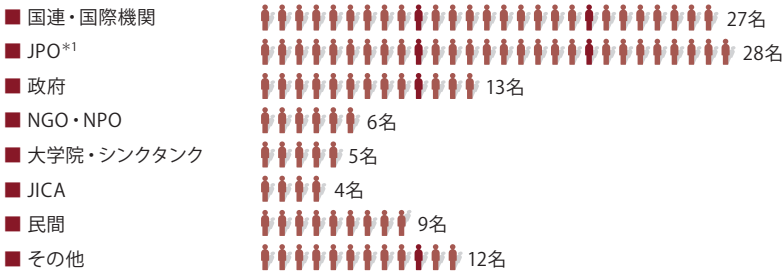
実際に国連の中で勤務してみると、国内研修の内容が日々の業務に直結していると改めて実感できます。派遣前のサポートも、個人でUNVに応募する場合には得られない貴重なものでした。この事業で得た経験を生かし、今後も脆弱国家における情報分析の専門性を磨きたいと考えています。



キャリア構築

修了生の現在のフィールド

研修後の研修員は、国連機関をはじめ、さまざまなフィールドで活躍しています。



*1: JPO(ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー)とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務できることを志望する若手日本人が、一定期間(原則2年間)各国国際機関で職員として勤務し、正規職員となるために必要な知識・経験を積む機会を得る制度です。

※平成19～25年度に実施された「平和構築人材育成事業」本コースの修了生104名のデータ
※平成28年3月時点

研修後の主な活躍の場

国連機関 ▶ UNDP (国連開発計画) ▶ UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) ▶ UNICEF (国連児童基金) ▶ UNESCO (国連教育科学文化機関) ▶ WFP (国連世界食糧計画) ▶ FAO (国連食糧農業機関) ▶ UN Women (ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関) ▶ UNCRD (国連地域開発センター) ▶ UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) ▶ OUNF&P (国連基金・計画事務所) ▶ DPKO (国連平和維持活動局) ▶ WHO (世界保健機関) ▶ UNMAS (国連PKO局地雷対策サービス部) ▶ UNV (国連ボランティア計画) ▶ UNRCPD (国連アジア太平洋平和軍縮センター) ▶ UNOPS (国連プロジェクト・サービス機関) ▶ UNFPA (国連人口基金) ▶ UN Secretariat (国連事務局) ▶ UNU (国連大学) ▶ UN-Habitat (国連人間居住計画) ▶ OCHA (国連人道問題調整事務所) ▶ PKO訓練センター ▶ KAIPITC (コフィ・アナン国際平和維持訓練センター) ▶ 国連平和活動ミッション ▶ MONUSCO (国連コンゴ民主共和国安定化ミッション) ▶ UNAMA (国連アフガニスタン支援ミッション) ▶ UNAMID (ダルフルール国連AU合同ミッション) ▶ UNAMI (国連イラク支援ミッション) ▶ UNIOGBIS (国連ギニアビサウ統合平和構築支援事務所) ▶ UNMIS (国連スーダンミッション) ▶ UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) ▶ UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) ▶ 国際機関 ▶ IOM (国際移住機関) ▶ INTERPOL (国際刑事警察機構) ▶ ICRC (赤十字国際委員会) ▶ World Bank (世界銀行) ▶ OSCE (欧州安全保障協力機構) ▶ NGO ▶ Medecins du Monde Japon (世界の医療団) ▶ JCCP (日本紛争予防センター) ▶ International Lifeline Fund ▶ World Vision Japan ▶ INTERSOS ▶ ADRA Japan ▶ NICCO (日本国際民間協力会) ▶ Action Contre la Faim ▶ CCP Japan (パレスチナ子供のキャンペーン) ▶ 政府関係機関 ▶ 外務省 (本省・在外公館) ▶ 内閣府 ▶ JICA (日本国際協力機構) ▶ JICE (日本国際協力センター) ▶ 広島県 ▶ 鈴鹿市 ▶ 入国管理局 ▶ その他の公的機関等 ▶ IGES (地球環境戦略研究機構) ▶ 結核予防会結核研究所 ▶ 笹川平和財団 ▶ 教育機関、医療機関、法務・政務事務所等

修了生の声



平和構築人材育成事業
平成24年度本コース修了生

相良 祥之

国連政務局 (DPA) 政策・和平調停部 政務官補

東京のIT企業で働いていた私が、数年後にはニューヨークの国連事務局本部で勤務することになるわけですから、人生は本当に何が起るかわかりません。2013年当時、私は、民間企業からJICAに転職してしばらく勤務し、紛争解決に実務家として携わりたいと考え応募した「本コース」に合格し、IOM (国際移住機関) スーダンを、UNVとして派遣されました。UNVとして、私は1年間、ダルフルールや南スーダンなどの紛争地から逃れる国内避難民 (IDP) ・難民に対する人道支援や平和構築に携わりました。紛争地の現場のスタッフから最新の情勢を聞き、水・保健などの専門家と連携して新規プロジェクト案を練りあげ、そのプロポーザルをドナー各国に持ち込んで資金を調達し、プロジェクトを立ち上げるという仕事です。私もダルフルールのIDPキャンプを訪問し、州政府とも協議を重ねました。民間で新規事業開発を担当していた私は、そのスキルを存分に活かして働きました。結果として日本やEUなどからご支援をいただくことができ、その成果が評価され、IOMスーダンにはコンサルタントとしてもう1年、合計で2年間お世話になりました。

その後、スーダンに来て2年目にJPO派遣候補者選考試験に合格しました。同試験の面接では、ダルフルールで目にした現場の惨状と国連安保理における政治的意思決定のギャップ、それを埋めるため、本部で政策決定に近い仕事に取り組みたいという希望を率直に述べました。そして現在は、国連事務局の政務局 (DPA) 政策・和平調停部の一員として、DPAが実施している調停や選挙支援の成果をまとめ、最新の学術研究やシンクタンクの分析を共有するナレッジ・マネジメントに取り組んでいます。紛争から逃れてきた人々との対話、州政府高官や部族長とのタフな交渉など、現場の経験が、私の全ての仕事の基盤になっています。





ミッドキャリア・コース

平和構築・開発専門家の更なるキャリア構築のためのスキル、能力の深化と実践

ミッドキャリア・コースは、平成28年1月9日から15日の7日間にかけて、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで実施されました。平和構築・開発分野にかかわる実務に既に5年以上従事している方々を対象に、国連平和活動及びその他の平和構築・開発分野におけるさらなるキャリア発展を目的として実施され、日本人22名、外国人5名の計27名が参加しました。

本研修では、組織における立場の変化と複雑化する業務への対応という課題において、必要となる総合的な応用力養成を目指し、国際機関における「コンピテンシー（業務能力）」である「コミュニケーション／ネゴシエーション」、「リーダーシップ／マネジメント」の強化に焦点をあてました。特にロール・プレイ演習などを通じて実務に役立つことを目指すとともに、国連本部の平和維持活動局（DPKO）、政務局（DPA）及び平和構築支援事務局（PBSO）との協力で実施され、講師陣のフィードバックをもとに更なる個々人のパフォーマンス向上を図りました。



Message

講師

山下 真理

国連平和構築支援事務局（PBSO）次長



私は現在、国連本部平和構築支援事務局(PBSO)で勤務しています。業務を通じて、紛争前後や複雑な移行期にある国々に対して包括的な支援を行っています。今回の研修では、平和構築、特別政治ミッション、平和維持活動も含めた平和活動に関するワークショップを行いました。国際機関で活躍中の参加者の方々に、平和と安全に関わる仕事を実践的な側面から紹介し、議論することができました。研修中には、国際機関におけるリーダーシップには何が求められ、いかに職場における多様性を尊重しながら、自分なりのリーダーとしてのスタイルを維持していくかなど、難しい問題と直面した議論もありました。研修を通じて、参加した方々一人ひとりとお互いの経験を分かち合うことができ、参加者にとっても、講師にとっても非常に貴重な機会となりました。参加した方々は皆様大変優秀で、世界中で活躍している方々ばかりで、大変心強く思います。参加者の皆様の今後の活躍を大きく期待しています。



ミッドキャリア・コース カリキュラム・講師紹介

1st. Stage 国際機関におけるコミュニケーションと交渉能力

Day 1 コミュニケーションと交渉：概要

Day 2 実践的な対人スキル

Day 3 実践的な広報スキル

2nd. Stage 多角的平和活動におけるリーダーシップとマネジメント能力

Day 4 リーダーシップとマネジメント：概要

Day 5 国連平和活動の機能と動向

Day 6 「移行期」演習

Day 7 「移行期」演習



忍足 謙朗
HPC評議委員／
元国連世界食糧計画（WFP）
アジア地域局長



アンドリュー・カシム
クルーシャル・コミュニケーションズ
創設者・トレーニングディレクター



ペロニカ・ペドロサ
アル・ジャジーラ タイ支局特派員



ジャック・クリストフィズ
国連平和維持活動局（DPKO）
アフリカII部部長



ジャスビール・リダー
前国連モザンビーク活動（ONUMOZ）
軍参謀長官／前国連スーダンミッション
（UNMIS）軍司令官



ロバート・ゴードン
チャレンジ・フォーラム シニア・
アドバイザー／前国連エチオピア・
エリトリア派遣団（UNMEE）軍司令官



山下 真理
国連平和構築支援事務局（PBSO）
次長



長谷川 祐弘
HPC評議委員会委員長／平和構築・開発
におけるグローバル人材育成事業プロ
グラム・アドバイザー／元国連東ティモール
担当 事務総長特別代表



篠田 英朗
HPC代表理事／平和構築・開発に
おけるグローバル人材育成事業
プログラム・ディレクター／
東京外国語大学教授



上杉 勇司
平和構築・開発におけるグローバル
人材育成事業プログラム・オフィサー／
早稲田大学教授



水野 孝昭
HPC評議委員／神田外語大学
外国語学部教授



小松原 茂樹
国連開発計画（UNDP）アフリカ局
アフリカ開発会議 プログラム・
アドバイザー



松川 潔
国連政務局（DPA）政策・調停部
ガイダンス・ラーニング・ユニット
政務官



堀田 真吾
外務省
国際協力局地球規模課題総括課
課長補佐



Message

参加者

小山 淑子

国際機関の厳しい現場や環境の中で仕事をし続けるためには、語学や技術スキルと同じく、もしくはそれ以上に、仲間同士のサポートと、インスピレーションをいただける先輩方の存在が不可欠だと、常々感じていました。今回、自分と同じような立場のミッドキャリアの人材に向けた研修が、ご経験豊かな講師の方々をお招きして行われることを知り、応募しました。研修を通じて、シニアレベルのリーダーのあり方を、講師の方々で自身の経験に基づいて直接伺うことができたことは大変ありがたく、自分自身の働き方を考える上で、大きな励みとなりました。また、世界中の様々な現場で懸命に働く仲間たちのご縁を頂き、今後の何よりの糧となりました。ミッドキャリアともなると、日々の業務に追われ、自分のキャリアを見つめる時間と労力を費やすことが難しくなる中で、今回このような機会を頂けたことに、深く感謝いたします。



Message

参加者

ロベルタ・ボンフィム

ミッドキャリア・コースは、私の想像以上に素晴らしい経験となりました。私は、紛争地域における平和構築及び人道支援分野に強い関心を抱いており、また、国際貿易センターや赤十字国際委員会（ICRC）等での業務を通じ、国際的な人道支援活動や開発分野における実務経験を持っていたため、本研修の受講を志望しました。本研修の前半部では、コミュニケーションの分野で世界的にご活躍されている専門家の方々に、困難な状況において、効果的にコミュニケーションを図り、影響を与え、変化をもたらすための実践的な技術を学びました。ロール・プレイやシミュレーションを用いた実践的な演習を通じて、参加者は、より現実に即した学習をすることができました。

後半部においては、平和構築に求められるリーダーシップについて学び、議論を深めることができました。講師陣は国連の平和維持活動において活躍されている素晴らしいリーダーの方々であり、研修では、各々の軍事、政務、開発分野の豊富なご経験を共有して下さいました。また、私たちは、国連で勤務し、より高いレベルのポジションを獲得するために求められるコンピテンシー（業務能力）について学ぶことができました。本研修の素晴らしい点は、様々な国際機関で活躍され、現場における多様な経験を持つ優秀な方々が参加していたことでした。全体を通して、私たちは、多くのことを学び、互いに学んだことを共有することができました。





キャリア構築支援

キャリア構築支援とは

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業では、平和構築・開発分野の国際機関等での就職を希望する方を対象に、ポストに応募する際に有益となるノウハウ(履歴書の作成、面接の応対等)を提供します。

キャリア支援セミナー

平成28年2月27日(土)・28日(日)

今年度のキャリア支援セミナーは、平和構築・開発に関連する分野で5年以上職務経験を持ち、今後、国連機関で働くことを希望する日本人の実務家約30名を対象に、特に平和維持・平和構築関連の国連ポストに応募する際に必要な知識とスキルを習得する機会として実施されました。

講師として国連フィールド支援局フィールド人事部次長のアンソニー・ダンカー氏を招いた本セミナーは、より効果的な指導を行うために参加者を専門分野により二つの日程に分けて実施しました。A日程では、政務、法務、民政、経済、選挙支援、人権、人道、保健・衛生、法の支配、社会等の分野を専門とする参加者、B日程では財務、人事、調達、IT、情報管理、広報、輸送、セキュリティ、サプライ・チェーン管理等の分野を専門とする参加者が、それぞれ活発な質疑応答や綿密なガイダンスを通じ、自身の専門分野におけるキャリア構築のための指導を受けました。

本セミナーでは午前中に国連平和活動ミッション人事に関する座学形式の講義を行った後、午後は採用につながる履歴書(PHP/P11)の作成方法及び面接対策に関する小グループ指導を行いました。また、小グループ指導において、個々の参加者の経歴にあわせ綿密なアドバイスをしながらガイダンスを行い、国連の採用プロセスにおける日本人の特徴的な弱点克服についても助言しました。参加者の方々からは国連平和活動ミッション人事制度の仕組みが理解でき、今後のキャリア形成に自信がついたという声が寄せられました。本セミナーでの研修内容を活かして、将来的に国連平和維持活動や特別政治ミッションなどで活躍する人材が輩出されることを期待します。



Message

講師

アンソニー・P・ダンカー

国連フィールド支援局(DFS) フィールド人事部次長

キャリア支援セミナーに講師として参加させていただいたことを光栄に思います。このセミナーは参加者の皆さんにとって、国連平和活動におけるやりがいのあるキャリアを学ぶよい機会だったと思います。

フィールド人事部では、国連平和維持活動と特別政治ミッションに優れた文民を派遣しています。平和活動に貢献するいわゆる「ブルー・ヘルメット」や軍事要員・警察要員だけでなく、6千人近くの国際文民職員、1万人を超える現地職員やUNボランティアがフィールドで活動しています。

文民は平和活動の最前線に立っています。地元社会の紛争調停のためには民政官が求められ、人権侵害を調査し、法の支配を広めるためには人権担当官、平和的移行やその他の多様な平和構築業務について助言するためには政務官が求められます。また、ロジスティクス、エンジニアリング、航空、管理の担当職員も変化する環境下で円滑なミッションを遂行するためには欠かせない存在です。

日本は、国連の平和活動に大きな貢献をしています。私は、参加者の皆さんにフィールドポジションに応募するために必要な情報とアドバイスを共有することができたことを嬉しく思います。今回のセミナーが、皆さんが平和への貢献のために共に働く励みになることを願っています。



Message

参加者

長尾 寛子

昨年4月よりUNVとして派遣され、UNDPアフガニスタンにて平和構築・開発スペシャリストとして勤務しています。これまで、中央アフリカと

アフガニスタンで合計UNV3年間と、NGOなどでキャリアを構築してきましたが、UNVも最終の4年目に入ることから、今後は国連でのプロフェッショナルなポストの獲得を目指していきたいと考えています。援助業界が縮小傾向でポストの競争が激化しているという厳しい現実と直面し試行錯誤していましたが、今回キャリア支援セミナーに参加し、国連の平和維持活動における採用状況や、ロスターの仕組みなど非常に参考になり、想像していたよりはチャンスがあるのではと感じました。

また、国連本部フィールド支援局の人事担当者が講師としてきてくださり、個人的なアドバイスも頂けた事で、希望が持てました。今回のセミナーを通じて得た情報を基に即実行に移し、今後のキャリア形成に繋げていきたいです。



その他の活動

研修コースやセミナーの他に、平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業の一環として、JPO派遣候補者赴任前研修、海外機関との関係強化、人材ニーズ調査などを行いました。

JPO派遣候補者赴任前研修

平成27年1月5日から1月8日まで、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで、JPO派遣候補者選考試験合格者を対象とした赴任前研修(外務省委託事業)を実施しました。経験豊富な講師の方々による大変有意義な研修となり、それぞれ派遣先の国際機関での活躍が期待されます。

海外機関との関係強化

ブラジル連邦共和国で開催された、平和維持活動訓練センター国際協会(IAPTC)の第21回年次会合にHPC職員が出席し、各国の研修機関との情報交換による関係強化を図りました。会場では米国を拠点とする平和維持訓練機関(POTI)との連携に関する協議を行い、その結果、本事業の各コースに参加された方々は、POTIが提供する平和活動に関連する29のEラーニング・コースを無料で受講できるようになりました。

人材ニーズ調査

ニューヨークにおいて国連に勤務する職員から、平和構築・開発分野における人材ニーズについて聞き取りを行いました。国連本部等では、平和維持活動局や政務局、平和構築支援事務局などを訪問し、必要とされる人材像をふまえた各研修コースの内容の充実につなげました。またフィールド支援局への訪問は、キャリア支援セミナーの実施に向けて、企画内容を協議する機会となりました。